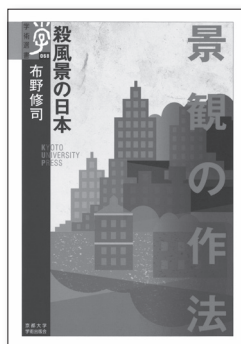




B6判 244ページ
定価 1,400円
東京書籍
(2014年6月発行)

日本人がつくり出した温泉の付加価値・情緒を学んで帰って来るとは、お風呂による平和でなく、お風呂による混浴論から外国人の温泉感覚まで、温泉にまつわる話が飛び交って織りなす世界を訪れてみてはいかがだろうか。(片桐)

温泉は脳にどう作用するのだろうか。脳科学者と温泉のプロとの歯に衣着せぬストレートなやりとりから、温泉の効用、魅力そして人との関係性などの核心に迫る展開に一気に引き込まれる。本書『お風呂と脳のいい話』(茂木健一・山崎まゆみ著、東京書籍)では、「いわゆる脳科学の言葉で、『マルチモーダル』って言うんですけど、視覚も聴覚も臭覚も触覚も、あともちろん、温かいという温度に関する感覚や温泉に入っているっていう感覚も全て総合的に関係している」など、茂木先生の表現が新鮮だ。日本全国そして海外で地元の人々と温泉に漬かり続けている温泉エッセイスト山崎氏がマンガ『テルマエ・ロマエ』を評する言葉、「ローマの浴場設計技師が、



四六並製 372ページ
定価 2,000円
京都大学学術出版会
(2015年1月発行)

な街の景観問題などを具体的に取り上げながら、景観、風景がどのようにつくり出されていくのかについてさまざまな考察が加えられており、我々の身近な街、生活の中の景観、風景を見つめ直す上でも多くの示唆を与えてくれる。(大隅)

「作法」とは、ものづくり方としての「さっほう」であり、日常的な立ち居振る舞いとしての「さほう」のことである。本書『景観の作法 殺風景の日本』(布野修司著、京都大学学術出版会)で著者は、東日本大震災後の被災地の「殺風景」(殺された風景)をつくり出しているものはさまざまな社会文化の枠組み(制度)であるという。そして、この「作法」のあり方によって風景を大きく変え得ると説く。本書では、震災後に生まれた「殺風景」をどのような風景へと創生させていくのかを大きな課題として提示しつつ、風景をつくり出す「作法」のあり方とはどうあるべきか、ということが主題となっている。風景を大きく変え得る作法の事例や身近

所蔵図書紹介

図書館からのお知らせ

移転・リニューアル開館に向けてのお知らせ(9月末閉館と臨時休館日)

「旅の図書館」は、1978年(昭和53年)の開館以来、一般の方から観光の研究者・実務者まで幅広い皆様にご利用いただいてまいりました。このたび、移転準備のため、本年9月30日(水)をもちまして一時閉館させていただくこととなりました。当財団本部とともに移転後(2016年

[平成28年]夏頃)は、観光研究の専門図書館としての機能の充実をさらに図ってリニューアル開館する予定です。詳細につきましては、当財団ホームページなどで改めてご案内をさせていただきます。

なお、移転準備のため、下記日程にて臨時休館させていただきます。ご利用者

皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【臨時休館日(7~9月)】

- 7月10日(金)、24日(金)
- 8月7日(金)、14日(金)、21日(金)、28日(金)
- 9月4日(金)、11日(金)、18日(金)

副館長のつぶやき

図書館勤務になって、週末、たまに「図書館めぐり」をするようになった。自身の業務の参考にしたいと思っただけであるが、ユニークな図書館やさまざまな魅力づくりに工夫している図書館を訪ね歩くうちに、図書館をめぐること自体が楽しみになってきた。

最近足を運んだ東京都北区立中央図書館は、旧陸上自衛隊十条駐屯地275号棟の赤レンガ倉庫を保存活用しながら現代建築と見事に融合させたユニークな図

書館で、2009年度(平成21年度)グッドデザイン賞を受賞するほど高い評価を受けている。低めの書架やゾーンごとに工夫された閲覧空間、北区の歴史が分かる「北区の部屋」やカフェの併設など、随所に計画者の意図や苦労が感じられ、図書館員の対応も含めて、場としての心地よさに感心させられた。

かくいう当館も、来年の移転を控え、これらに劣るまいと、観光研究専門図書館と



赤レンガが映える東京都北区立中央図書館の外観

しての理想像に一步でも近づくべく日々の課題に向き合っている。(大隅)